

第7回：人をもてなすとは

教場長 田中仙融

2020年夏季オリンピックが東京で開催されることが決定しました。このプレゼンテーションで思いもかけず話題になったことばが「お・も・て・な・し」です。

スポーツの祭典ではありますが、多くの国の方が日本を訪れる機会です。いかにもてなすかと言うことは国民全員に課せられた課題なのかも知れません。

ある茶道講座の主催者の方が、「この講座では、おもてなしの何であるかを学ぶことができると思います」と紹介して下さいました。茶道というものに対しての一般の方の印象はもてなす文化ということなのでしょう。

しかし、茶道を嗜む私たちが考えるおもてなしは、茶会で人をお招きすることです。おいしい抹茶を点ててさしあげます。にこやかな笑顔で対応します。などと直接茶道と関係あることばかりです。茶道の場のみにとどまらず、いつもつねにおもてなしの姿を意識するべきではないでしょうか。

優雅に歩き、美しく振る舞い、美しい日本語を話し、人に優しく接する。物の美しさを語り、おいしさ、作り手のすばらしさを説明し、お互いを思いやる大切さを伝える中に私たちが目指す「おもてなし」の世界があるのではないのでしょうか。

こういった人を仙樵居士は「茶道人」と名付けたのです。「茶道を日常の生活と不即不離の関係にするように修行せよ」仙樵先生の掲げられた目標を実現する良いチャンスと捉え、ご一緒に、日々の行動から見直してみましょ。

平成 25 年 11 月 発行 会報「えんじゅ 77 号」掲載